

# 日本カリキュラム学会

## 第25回(関西大学)大会プログラム

### <大会日程>

◆ 前日 2014年6月27日(金) 17:00~19:00 理事会  
(阪急ターミナルスクエア 17)

◆ 第1日 2014年6月28日(土) 9:15~受付

10:00	合同課題研究 I & II (E403)
12:30	昼食・新理事会
13:30	自由研究発表 I
15:00	休憩
15:10	公開シンポジウム (千里ホールA)
17:40	移動
18:00	研究交流会 (凜風館)
20:00	

◆ 第2日 2014年6月29日(日) 9:30~受付

10:00	自由研究発表 II	
12:00	移動	
12:10	総会 (E402)・昼食	
14:00		
16:00	課題研究 III (E402)	課題研究 IV (E403)

2014年6月28日(土)~29日(日)

会場 関西大学

## 大会参加要領

1. **会場案内**：会場は関西大学です。会場への経路は、本プログラムや大学ホームページ (<http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~t120025/>) でご確認ください。
2. **受付**：大会第1日目（6月28日）は9：15、第2日目（6月29日）は9：30から行います。受付場所は、第1学舎1号棟（2階正面玄関を予定）です。

大会参加費	正会員	4,000円
	学生会員	3,000円
	臨時会員	3,500円

3. **懇親会**：大学生協食堂（凜風館）にて行います。

研究交流会 参加費	3,000円
-----------	--------

4. **昼食**：6月28日は、1号館1階の食堂や大学生協食堂（凜風館：マップ23に示す）をご利用下さい。6月29日は、日曜日のため、食堂や凜風館が閉じていますので、昼食は、前日の6月28日（土）午後5時までに受け付けにて昼食チケット（お茶込みで1,000円）を購入して下さい。
5. **宿泊斡旋**：大変申し訳ありませんが、宿泊の斡旋を行いません。各会員ご自身で、宿泊等の手配をお願い致します。関大前駅周辺にはホテルや旅館はありません。大阪駅周辺のホテルが便利です。

## 自由研究発表要領

- I 発表時間：自由研究の発表時間は、原則として下記の通りです。

個人研究発表	発表 20分	質疑討議 5分	（計 25分）
共同研究発表	発表 40分	質疑討議 10分	（計 50分）

- II 発表資料：発表資料等は、発表者各自で配布分（70部程度）をご用意の上、当日の発表開始10分前までに各会場の係員に提出して下さい。事前に送付することはお控え下さい。
- III 発表用機材：発表に使用される機材は、申し込み時にご連絡頂いた方に限らせて頂きます。機材を使用する予定の発表者は、各自で事前に機器の作業確認を行ってください。
- IV 発表中止：発表を取りやめる場合は、事前に大会準備委員会までご連絡ください。なお、発表時間の繰り上げは行いません。

自由研究発表 I 及び II の発表題目の後ろに\*と記しているのは、液晶プロジェクターやビデオを使用しない発表を示しています。

1. **会場案内**：会場は、関西大学第1学舎の1号館と3号館（C棟）と5号館（E棟）です。阪急千里線で関大前駅北口を出て、矢印のように正門まで（徒歩10分程度）お越しいただき、案内板にしたがって進むと、第1学舎（**1**に記す）に至ります。



**大阪（梅田）からのアクセス**：阪急電鉄「梅田」駅から、千里線「北千里」行で「関大前」駅下車（この間約20分）、徒歩約5分。または京都「河原町」行（通勤特急を除く）で「淡路」駅下車、「北千里」行に乗り換えて「関大前」駅下車。

**京都（河原町）からのアクセス**：阪急電鉄「梅田」行で「淡路」駅下車、「北千里」行に乗り換えて「関大前」駅下車、徒歩約5分。

**地下鉄利用のアクセス**：地下鉄堺筋線（阪急電鉄千里線に相互乗り入れ）が阪急電鉄「淡路」駅を経て「関大前」駅に直通しています。

**新幹線「新大阪」駅からのアクセス**：

- 地下鉄および阪急電鉄利用の場合：JR「新大阪」駅から地下鉄御堂筋線「なかもず」行で「西中島南方」駅下車、阪急電鉄に乗り換え「南方（みなみかた）」駅から「淡路」駅を経て「関大前」駅下車（この間約30分）、徒歩約5分。
- JR利用の場合：JR「新大阪」駅からJR京都線（東海道本線）「京都」方面行（快速・新快速を除く）で「吹田」駅下車（この間約5分）の後、阪急バス「JR吹田北口」停留所から「関西大学」停留所下車（この間約7分・25分間隔で運行）、徒歩約7分。

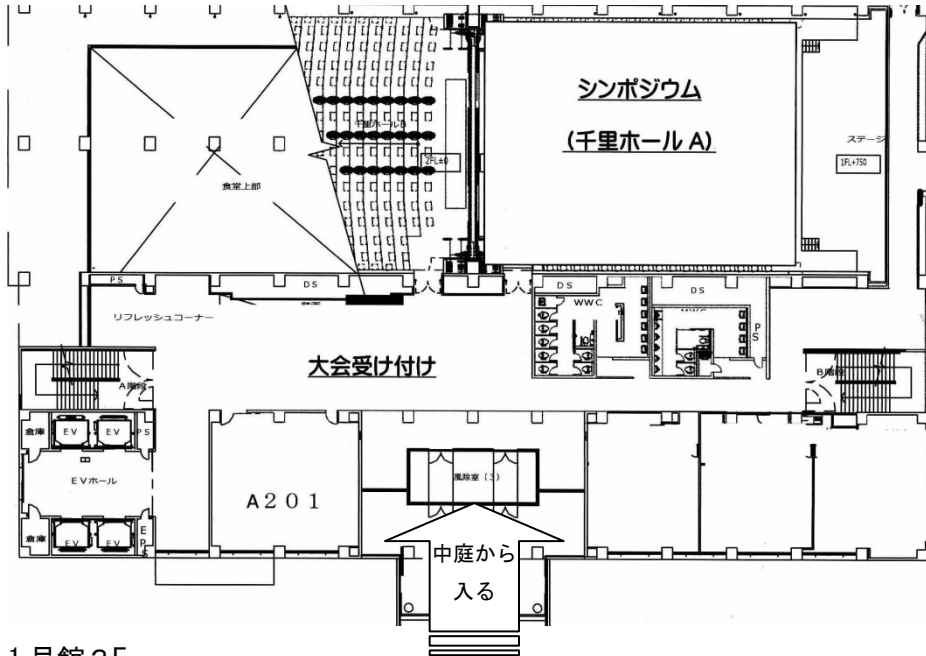
**JR京都線（東海道本線）利用のアクセス**：JR「吹田」駅下車の後、阪急バス「JR吹田北口」停留所から「関西大学」停留所下車（約7分・25分間隔で運行）、徒歩約7分。

**大阪（伊丹）空港からのアクセス**：大阪モノレール「大阪空港」駅から「門真市（かどまし）」行で「山田」駅下車、阪急電鉄に乗り換え「関大前」駅下車（この間約30分）、徒歩約5分

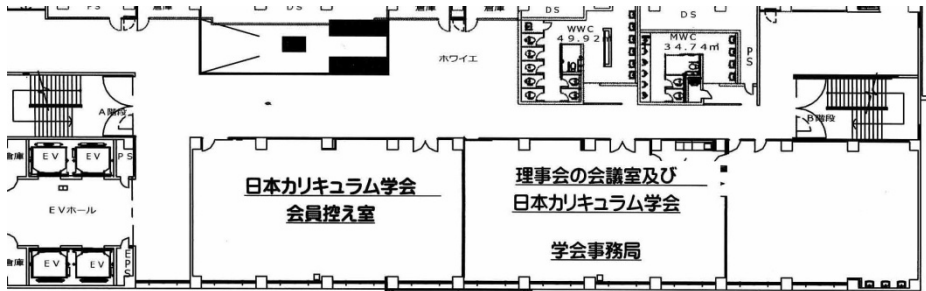
## 発表会場案内図（第1学舎1号館及び5号館 [E棟]）

1日目の自由研究発表は、太字と下線で示す教室で実施。それ以外は土曜日の授業中。

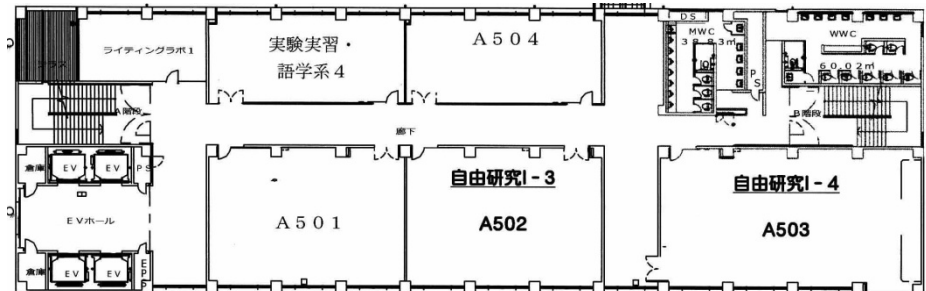
### 1号館2F



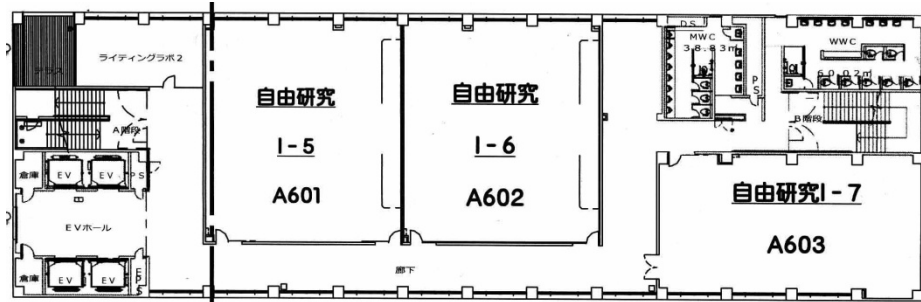
### 1号館3F



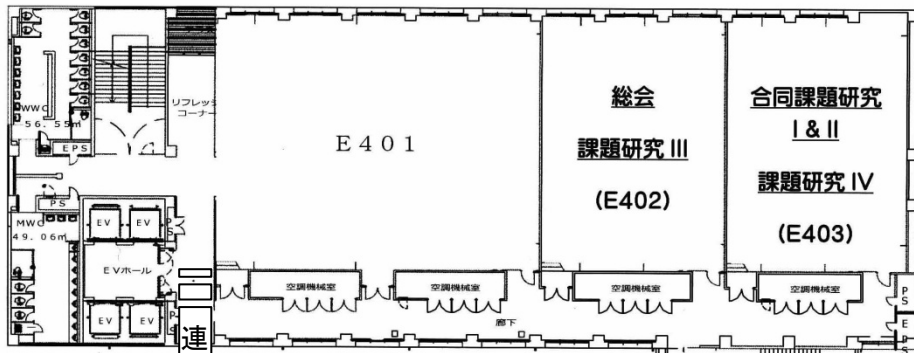
### 1号館5F



1号館6F



5号館 [E棟] 4F(I&IIの合同課題研究、課題研究 III、課題研究 IV)



1号館4F

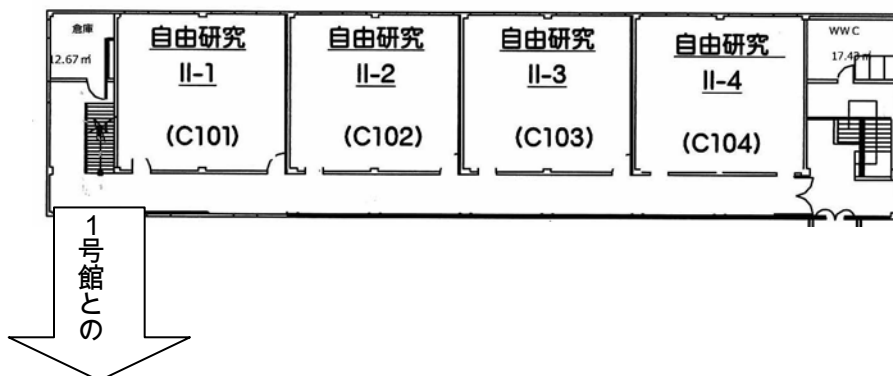


1号館と5号館[E棟]の連絡通路は、マップ上では繋がっていませんが、実際には、30メートル程度の直線で繋がっています。

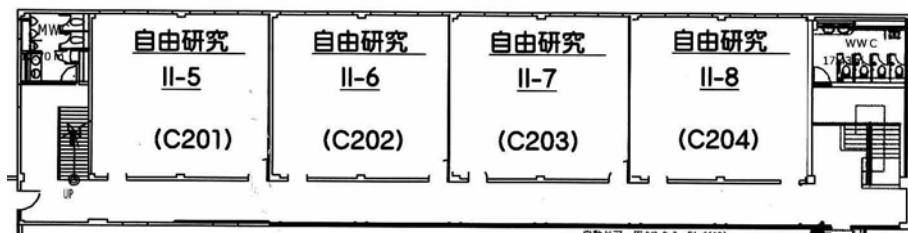
### 発表会場案内図（第1学舎 3号館 [C棟]）

2日目の自由研究発表は、3号館 [C棟] の1階から3階の教室を充てています。

#### 3号館 [C棟] 1階



#### 3号館 [C棟] 2階



#### 3号館 [C棟] 3階



日本カリキュラム学会の“会員控え室”として1号館3階に1部屋を設けていますが、6月29日に限ってはC302でも控え室として使用することができます。

1 日目 (6 月 28 日) 10:00~12:30

敬称略・司会は五十音順

合同課題研究 I & II

5 号館 E 4 0 3 (4 F)

現代日本の教育課程政策における政治・行政・経営をめぐる諸問題

司会・コーディネーター:

安彦忠彦 (神奈川大学)

澤田 稔 (上智大学)

#### 発表者:

- ・ 新たな政治情勢と教育課程政策—本課題研究の趣旨説明を含めて—  
天笠 茂 (千葉大学)
- ・ 学習指導要領改訂の方向性 前川喜平 (文部科学省初等中等教育局長)
- ・ カリキュラム行政をめぐるポリティックス 広田照幸 (日本大学)
- ・ 改訂学習指導要領の構造分析—カリキュラム・ポリティックスの観点より  
長尾彰夫 (大阪教育大学名誉教授)

#### 指定討論者:

- ・ 水原克敏 (早稲田大学)

#### 趣旨説明:

本課題研究は、日本の教育課程を取り巻く急速な環境の変化をふまえ、これまで、政治学の立場からカリキュラムをめぐる課題を追求してきた第 I 分科会、及び、カリキュラムのマネジメントを柱に行政・経営面の立場からアプローチしてきた第 II 分科会、を合同させ新しい事態へのアプローチを意図して開催することにした。

政権交代による安倍内閣誕生という政治情勢の変化のもと、教育再生実行会議による矢継ぎ早の教育改革の方針の提示が、カリキュラムをめぐる行政や経営にも影響を与えている。例えば、首長主導による教育委員会の見直しをはじめ、道徳の教科化として「特別の教科 道徳」が具体化し、グローバル化への対応として策定された英語教育改革実施計画は、小学校における「英語」の低学年化を示すとともに、学習指導要領改訂にも踏み込み、2020 年本格実施というスケジュールを打ち出し既定の路線となりつつある。

この急ピッチの変化に対して、中央教育審議会を柱とする教育課程政策の策定と実施に関わる一連のシステムも、これまで果たしてきた機能や役割について見直さざる得ない状況に置かれている。さらにいえば、このような教育課程政策の形成と実施をめぐる環境の変化は、カリキュラムに関する知見を有する専門家によって組織される日本カリキュラム学会にも諸々のインパクトを及ぼしている。これら環境の変化をもたらしているメカニズムやダイナミックをどうとらえるべきか。底流に流れているものは何か。事柄の本質をいかに読み取るべきかなど、究明すべき課題が次々に浮かび上がりつつある。

したがって、本課題研究では、各分科会が積み上げてきた方法論や知見をもとに、新たな政治情勢のもとでの教育課程政策をめぐる政治・行政・経営上の課題を明らかにし、また、動き出しつつある学習指導要領改訂を検討することを通して、わが国の教育課程政策の方向性について、さらには本学会の在り方について議論を深めたい。

1 日目 (6 月 28 日) 13:30~15:00

敬称略・司会は五十音順

自由研究 I - 1

1 号館実験実習・語学系 1 (4 F)

司会 子安 潤(愛知教育大学)  
田中統治 (筑波大学)

- 13:30 インクルーシブ教育を推進するためのカリキュラム上の課題  
藤田浩史 (奈良県立高等養護学校)
- 13:55 過疎地小規模校における小中一貫教育のカリキュラム開発と  
その評価  
伏木久始 (信州大学)
- 14:20 学力形成に果たす教育課程の役割  
ー秋田県 A 市の事例を通してー  
吉富芳正 (明星大学)

全体討議

自由研究 I - 2

1 号館実験実習・語学系 3 (4 F)

司会 木全清博 (京都華頂大学)  
豊田ひさき (中部大学)

- 13:30 野村芳兵衛の綴方教育論における遊びの問題\*  
富澤美千子 (奈良女子大学大学院・日本学術振興会特別研究員)
- 13:55 韓国の就学前教育・保育における教育課程の一元化に関する考察  
ー幼保の教育課程の変遷とヌリ課程を中心にー\*  
呉地初美 (早稲田大学大学院)
- 14:20 西口槌太郎によるドクロリー教育法の受容  
ー大正新教育期の教師に与えたドクロリー教育思想の影響ー\*  
橋本美保 (東京学芸大学)

全体討議



1 日目 (6 月 28 日) 13:30~15:00

敬称略・司会は五十音順

自由研究 I - 3

1 号館 A 5 0 2 (5 F)

司会 田上 哲 (九州大学)  
松川利広 (奈良教育大学)

- 13:30 発達段階に即したクラスサイズへの取り組み  
ー埼玉県志木市の 25 人程度学級の成果と課題ー\*  
坂本徳雄 (国士舘大学大学院)
- 13:55 マイクロティーチングによる授業力向上カリキュラムの検討  
○藤川 聡 (北海道教育大学)  
水上丈実 (北海道教育大学)
- 14:20 授業分析における記録の記述形式に関する研究  
的場正美 (東海学園大学)

全体討議

自由研究 I - 4

1 号館 A 5 0 3 (5 F)

司会 金馬国晴 (横浜国立大学)  
橋川喜美代 (兵庫教育大学)

- 13:30 小宇宙としての自然園における幼児の  
エゴ・アイデンティティの形成  
ー幼児の事物とのかかわりを中心としてー  
竹村直記 (上智大学大学院)
- 13:55 保育の理念と保育課程  
ーオランダ ピラミッド・メソッド理論とその実践方法の考察ー  
大西慶一 (大阪女子短期大学)
- 14:20 私立幼稚園の特性に応じた保育目標明確化手順の提唱\*  
横松友義 (岡山大学)

全体討議

1 日目 (6 月 28 日) 13:30~15:00

敬称略・司会は五十音順

自由研究 I - 5

1 号館 A 6 0 1 (6 F)

司会 原田信之 (名古屋市立大学)

水原克敏 (早稲田大学)

13:30 教職大学院におけるカリキュラム開発

— Action Research の視点から —

倉本哲男 (愛知教育大学)

13:55 分かち合い、共に未来を創造する子どもの育成

— 2 領域カリキュラムで見方・考え方を育む指導と評価の在り方 —

○黒田拓志 (香川大学教育学部附属高松小学校)

○磯田文雄 (元文部科学省)

○石井英真 (京都大学)

○根津朋実 (筑波大学)

全体討議

自由研究 I - 6

1 号館 A 6 0 2 (6 F)

司会 樋口直宏 (筑波大学)

松下佳代 (京都大学)

13:30 「文化的リテラシー」論と「批判的リテラシー」論の比較

— カリキュラムの実践運用を手掛かりに —

翟 高燕 (慶應義塾大学非常勤)

13:55 コンピテンシーに基づく教育課程改革をめぐる諸問題

— イギリス、フィンランド、オーストラリア、ニュージーランド  
の事例から —

松尾知明 (国立教育政策研究所)

14:20 21 世紀型スキルの育成を視野に入れたナショナルカリキュラム  
(中等教育) 改革を探る — アイルランドの場合 —

小柳和喜雄 (奈良教育大学)

全体討議

1 日目 (6 月 28 日) 13:30~15:00

敬称略・司会は五十音順

自由研究 I - 7

1 号館 A 6 0 3 (6 F)

司会 大野裕己 (兵庫教育大学)  
矢野裕俊 (武庫川女子大学)

13:30 学校図書館によるカリキュラム支援

ーカリキュラムマネジメント理論援用の可能性ー

西巻悦子 (筑波大学大学院)

13:55 カリキュラムマネジメントの評価手法の比較検討

○村川雅弘 (鳴門教育大学)

○田村知子 (岐阜大学)

根津朋実 (筑波大学)

本間学 (中村学園大学)

全体討議

1 日目 (6 月 28 日) 15:10~17:40

敬称略・司会は五十音順

公開シンポジウム

1 号館千里ホールA

カリキュラム研究の課題  
—子どもの「資質・能力」をどのように育成するのか—

司会：

安彦忠彦(神奈川大学)

安藤輝次(関西大学)

パネリスト：

- ・ 学力向上に向けた豊後高田市の学校実践  
山本輝昭(大分県豊後高田市立戴星学園)
- ・ 学力を下支えしている「効果ある学校」の実践について  
葛上秀文(鳴門教育大学)
- ・ 学校におけるカリキュラム改善の進め方-「逆向き設計」論からの提案-  
西岡加名恵(京都大学)

趣旨説明：

文部科学省は、全国学力テストについて、自治体単位での学校別成績の公表を禁止してきた。しかし、平成 26 年度からこの方針を転換して、市町村教育委員会の判断によって、学校別の結果を公表できるように実施要領を改訂し、学校の序列化に繋がらず、過度な競争にも陥らないように、学校ごとの平均正答率だけでなく分析結果も合わせて公表すること、一覧化や順位付けは禁止することという配慮事項を盛り込んでいる。

しかし、このような配慮事項を守れば、本当に子どもたちはテストの一点刻みの競争に凌ぎをけずることはなくなるのだろうか。もしもそれができたとしても、学力テスト結果の公表は、深い思考・判断や OECD のコンピテンシーなどの新しい能力を軽視して、測定しやすい知識・理解、技能、浅い思考などを前面に出す教育実践を醸成するのではないだろうか。学力テストは、知識・理解や技能に係わる問題 A だけでなく活用型学力を測定する問題 B もあるとは言え、いわゆる新しい能力については、ルーブリックを使ったパフォーマンス評価をせざるを得ないからである。

このように学力テスト結果の自治体による公表への動きは、これからの小中学校における子どもの資質・能力の育成に大きな影響を及ぼすことが予想される。とすれば、日本カリキュラム学会として、この問題について何らかの取り組みをすべきである。

このような問題意識に基づいて、本シンポジウムでは、次の 3 人のパネリストからそれぞれのお考えや実践を発表していただき、フロアーの皆様からの意見も頂戴しながら、この問題について争点を明らかにし、今後の在り方を探ろうとするものである。

研究交流会：

18:00~20:00

凜風館(2F)にて行います。楽しいひと時をお過ごしください。

参加費 3,000 円

2 日目 (6 月 29 日) 10:00~12:00

敬称略・司会は五十音順

自由研究 II-1

3 号館 C 1 0 1 (1 F)

司会 池野範男 (広島大学)  
工藤文三 (帝塚山学院大学)

- 10:00 高等学校における総合社会科実践での阻害要因の考察  
堀田貴之 (名古屋大学大学院)
- 10:25 スウェーデンにおける多文化理解のためのカリキュラムの検討  
埴 万里奈 (東京学芸大学大学院)
- 10:50 小学校低学年期の合科・総合的学習の国際比較と実態調査研究 (2)  
オーストラリア・ヴィクトリア州の初等カリキュラムと授業の検討  
ーメルボルン市の二つの小学校を中心にー  
○前田賢次 (北海道教育大学札幌校)  
○佐藤 有 (北海道教育大学岩見沢校)  
木全清博 (京都華頂大学)

全体討議

自由研究 II-2

3 号館 C 1 0 2 (1 F)

司会 小柳和喜雄 (奈良教育大学)  
久野弘幸 (名古屋大学)

- 10:00 少子化時代における台湾の国際教育の現状と課題  
○林 明煌 (台湾・嘉義大学)  
林 良慶 (台湾・台中教育大学)
- 10:25 韓国の自由学期制による中学校カリキュラムの変化  
ー中学校のアイデンティティと独自性の視点からー  
鄭 栄根 (韓国教育課程評価院)
- 10:50 日本の中等教育における探究学習の展開  
ー1970年代の教育的実践を中心にー\*  
崔 英姫 (東京大学大学院)
- 11:15 アジア比較に基づく基礎教育課程の「一貫制」に関する  
理論的・実践的研究 (V) ー生涯学習の目標化を中心にー  
田中統治 (筑波大学)

全体討議

2日目(6月29日) 10:00~12:00

敬称略・司会は五十音順

自由研究Ⅱ-3

3号館C103(1F)

司会 石井英真(京都大学)  
木原俊行(大阪教育大学)

- 10:00 エニスのクリティカル・シンキング理論における主題特定性\*  
小林祐也(関西大学大学院)
- 10:25 和田義信の数学教育思想\*  
佐藤英二(明治大学)
- 10:50 関数の初歩としての倍概念  
—分数の乘法を目指す教材系列—  
正田 良(国士舘大学)
- 11:15 小中連携・一貫「算数・数学」カリキュラム構築に関する  
一つの視点  
井上正允(元佐賀大学)

全体討議

自由研究Ⅱ-4

3号館C104(1F)

司会 橋本美保(東京学芸大学)  
吉富芳正(明星大学)

- 10:00 総合的な学習のリーダーに焦点をあてたカリキュラム  
マネジメントを規定する要素の分析に関する調査研究  
○曾我悦子(九州大学大学院)  
中留武昭(九州大学名誉教授)
- 10:25 SBCD再考  
—活動理論と公共性の視点から—  
佃 繁(プール学院大学)
- 10:50 プロジェクト学習における主体的な概念形成と表現活動  
—UCLAラボスクールの探究授業を事例にして—  
山住勝広(関西大学)

全体討議

2日目(6月29日) 10:00~12:00

敬称略・司会は五十音順

自由研究II-5

3号館C201(2F)

司会 小泉祥一(東北大学)  
西川信廣(京都産業大学)

- 10:00 中等教育におけるリベラルアーツ・セミナー  
ー学校設定科目「コロキウム」の試みー  
河合士郎(奈良女子大学附属中等教育学校)
- 10:25 教室における知的権威の関係を捉える枠組みの検討  
ー参加構造における学習課題の位置づけに着目してー  
金田裕子(南山大学)
- 10:50 フェミニスト的教授を意図した理科実践の一考察  
氏原陽子(釧路専門学校)
- 11:15 科学教育のカリキュラム・ポリティクス  
ー対立と価値判断の原子力・エネルギー教育へー\*  
澤田 稔(上智大学)

全体討議

自由研究II-6

3号館C202(2F)

司会 木村博一(広島大学)  
峯 明秀(大阪教育大学)

- 10:00 教師分析に基づく学級経営から視る教師教育  
ーAction Researchの視点からー  
川上知子(佐賀市立城南中学校)
- 10:25 授業の文化的スクリプトの複合的構造の解明  
ー比較授業分析を通してー  
○サルカール アラニ・モハメッド レザ(帝京大学)  
○柴田好章(名古屋大学)
- 11:15 「総合的な学習の時間」におけるカリキュラム開発力の育成  
藤川聡(北海道教育大学)

全体討議

2 日目 (6 月 29 日) 10:00~12:00

敬称略・司会は五十音順

自由研究 II-7

3 号館 C 2 0 3 (2 F)

司会 中野和光 (美作大学)  
的場正美 (東海学園大学)

- 10:00 フランス市民性教育による政治的市民性のカリキュラム  
ー公民教育の教科書の内容項目を手懸かりにー  
高橋洋行 (松山東雲短期大学)
- 10:25 在日コリアンのアイデンティティ形成に向けた外国人教育  
ー外国人教育方針についての教師の解釈とカリキュラム構成ー\*  
磯田三津子 (埼玉大学)
- 10:50 80 年代ドイツ教育改革の参照先としての「教育的教授」論  
ー教育的教授論とノルトライン・ヴェストファーレン州  
85 年版学習指導要領の間ー\* 牛田伸一 (創価大学)
- 11:15 教科書における「学習課題」の教授学的機能に関する研究  
ー日本とドイツの教科書比較を通してー\* 吉田成章 (広島大学)

全体討議

自由研究 II-8

3 号館 C 2 0 4 (2 F)

司会 瀬戸 健 (上越教育大学)  
永田忠道 (広島大学)

- 10:00 メイラ・レヴィンソンによる市民性教育\*  
藤本奈美 (京都大学大学院)
- 10:25 学校の教育課程の改善を支える市教育委員会の「専門性」の向上  
に関する一考察 ー上越市教育委員会の取組からー  
石田有記 (市川市教育委員会)
- 10:50 専門学科から高等教育への進学における「カリキュラムの有意性」  
の認識 (2) ー継続的調査に基づく検討ー  
岡部善平 (小樽商科大学)
- 11:15 市民社会の動態の中のカリキュラム  
ー政府の意図とカリキュラムの実態ー\*  
磯田文雄 (元文部科学省)

全体討議



2 日目 (6 月 29 日) 10:00~12:00

敬称略・司会は五十音順

自由研究 II-9

3 号館 C 3 0 1 (3 F)

司会 倉本哲男 (愛知教育大学)  
横松友義 (岡山大学)

- 10:00 サービス・ラーニングにおける「振り返り」に関する一考察  
加藤 智 (浜松学院大学)
- 10:25 ブルーナーの『教育過程』再考②  
ー『教育の過程』50周年記念研究会後半を中心にー\*  
今井康晴 (武蔵野短期大学)
- 10:50 作業主義カリキュラム開発における唱歌専科訓導の職能形成  
ー東京女子高等師範学校附属小学校の玉村奈美を事例としてー\*  
塚原健太 (東京学芸大学大学院)
- 11:15 東京女子高等師範学校附属小学校におけるドクローリー教育法の  
受容ー全体教育のカリキュラム開発に与えた影響を中心にー\*  
遠座知恵 (東京学芸大学)

全体討議

自由研究 II-10

3 号館 C 3 0 3 (3 F)

司会 三石初雄 (帝京大学)  
大野栄三 (北海道大学)

- 10:00 理科カリキュラムの媒介的統制の所在に関する研究  
○野添 生 (広島大学附属東雲中学校・広島大学大学院)  
中田晋介 (広島市教育委員会・広島大学大学院)  
磯崎哲夫 (広島大学大学院)
- 10:25 学習の共通性を見いだす能力を高めさせる指導に関する一考察  
ー濃度と湿度の飽和の概念を通してー  
○橋本美彦 (中部大学)  
石井俊行 (奈良教育大学)
- 10:50 一貫した言語活動を基軸とした地域学の創出  
ー教科横断的な学習を通じた思考・判断・表現力育成の方策ー  
○石原陽子 (プール学院大学)  
○岡崎 裕 (プール学院大学)  
○山東 功 (大阪府立大学)

全体討議

2 日目 (6 月 29 日) 10:00~12:00

敬称略・司会は五十音順

自由研究 II-11

3 号館 C 3 0 4 (3 F)

司会 村川雅弘 (鳴門教育大学)  
八尾坂修 (九州大学)

- 10:00 高等学校の女子理系選択者に関する課題  
ーアンケート調査結果の分析からー  
秋永能宏 (静岡県立伊豆中央高等学校)
- 10:25 実践コミュニティの変容過程としてのカリキュラム  
ー教員養成カリキュラム改革実践の批判的省察ー  
遠藤貴広 (福井大学)
- 10:50 教員研修DVD「授業力の『見える化』」を活用した教員研修プログラムー「授業を見る力」獲得プログラムの実際ー  
佐瀬一生 (千葉大学)
- 11:15 学士力からみた教育学部カリキュラムのあり方と今後の課題  
赤堀侃司 (白鷗大学)

全体討議

◆総会

3 号館 E 4 0 2 (4 F)

12:10~

2 日目 (6 月 29 日) 14:00~16:00

敬称略・司会は五十音順

課題研究 III パフォーマンス評価の理論的根拠と実践的可能性  
3 号館 E 4 0 2 (4 F)

司会・コーディネーター：  
佐藤 真(関西学院大学)  
西岡加名恵(京都大学)

**発表者：**

- ・ 歴史教育のカリキュラム設計とパフォーマンス評価ー日本とイギリスの比較にもとづいてー 鋒山泰弘(追手門学院大学)
- ・ パフォーマンス評価で生徒を育てる 田中容子(京都府立園部高等学校)
- ・ 子どもがつくるルーブリックの価値とルーブリックにおける段階間の意味の差 黒上晴夫(関西大学)

**指定討論者：**

- ・ 豊田ひさき(中部大学)

**趣旨説明：**

「思考力・判断力・表現力」を育成する評価方法として、パフォーマンス評価が注目されている。パフォーマンス評価とは、知識やスキルを使いこなす(活用・応用・総合する)ことを求めるような評価方法(問題や課題)である。パフォーマンス評価については、問題解決力やコミュニケーション力といった「資質・能力」やコンピテンシーを育成する上でも、意義を持つことが期待されている。

しかし一方で、パフォーマンス評価を実践するには、教師にかなりの力量が必要となる、評価にかかる負担も大きい、といった問題点も指摘されている。

そこで、本課題研究では、パフォーマンス評価に関する理論的根拠と実践的可能性について検討する。具体的には、パフォーマンス評価に関して下記のような論点を扱う。

- どのような目標論に基づくものか。
- 具体的に、どのような評価方法があるのか。
- 評価規準・基準をどのように設定すればよいのか。
- 児童・生徒への指導をどのように行うのか。
- 教師の力量をどのように向上させるのか。
- 学校としての体制をどのように作るのか。
- パフォーマンス評価の意義、ならびに問題点や限界は何か。

課題研究 IV 諸外国における道德教育の動向

3 号館 E 4 0 3 (4 F)

司会・コーディネーター：

磯田文雄(元文部科学省)

近藤孝弘(早稲田大学)

発表者：

- ・韓国における道德教育の動向 趙 卿我(京都大学)
- ・ドイツ連邦共和国における倫理科による道德教育のカリキュラム—ノルトライン・ヴェストファーレン州実践哲学科とブランデンブルク州 LER 科の事例比較を中心に— 濱谷佳奈(大阪樟蔭女子大学)
- ・いまなぜ、公民および道德教育が必要なのか(フランス) 園山大祐(大阪大学)
- ・アメリカの道德教育論と日本の実践の現状 浅沼 茂(東京学芸大学)

趣旨説明：

教育再生実行会議の提言を受け、文部科学省の「道德教育の充実に関する懇談会」(以下「懇談会」という。)は、平成 25 年 12 月 26 日、報告書を提出、道德の時間を、例えば、「特別の教科 道德」(仮称)として新たに教育課程に位置づけること、検定教科書を用いること、学級担任が指導を行うことを原則とすること、数値による評価は不適切であり、記述式の評価を導入することなどが提言されている。さらに、平成 26 年 2 月 17 日、文部科学大臣は中央教育審議会に「道德に係る教育課程の改善等について」諮問、「特別の教科 道德」(仮称)を教育課程に制度上位置づけること等について検討が進められている。

目を海外に転ざると、韓国では、教科の中で道德が位置づけられ、「道德教科書」が使用されているが、「道德教科書」の内容や教科の在り方をめぐる論争が起きており、韓国政府では道德を現在の日本のように「教科外の時間」へと改正する動きも一部ある。

また、フランスは、移民の国でありながらも、2004 年のスカーフ禁止法に象徴されるように政教分離を徹底している。道德教育については、2008 年の学習指導要領の改訂で「公民教育」が「公民及び道德教育」に改められ、その強化が目指されている。ドイツでも、移民の増大などにより価値観の多様化が進むなか、民主主義社会を担う市民の育成という課題に向けた取り組みが模索されている。一方、アメリカでは、内心の自由が絶対視されることから、道德教育は「価値明確化」、「道徳性発達論」、「キャラクター教育」と 3 つの立場から理論と実践が展開されてきたが、その現状はどのようなものなのか。道德教育に係る諸外国の動向について紹介し、我が国の教育課程における道德教育のあり方の検討の一助となることを期待する。

本大会では事前申し込みは、受けつけておりません。  
振込みによる事前受付はありません。当日に参加費を申し受けます。

**【事務局】** 日本カリキュラム学会 第25回大会実行委員会  
〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35 関西大学文学部  
大会に関わるご案内やQ & A (<http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~t120025/>)を  
参照願います。  
連絡、問い合わせは、下記の電子メールでお願いいたします。  
E-mail: [jscskansai@gmail.com](mailto:jscskansai@gmail.com)